

環境事業団 P C B 処理技術懇談会議事要旨

- 1 開催日時 平成 13 年 7 月 27 日 (金) 14:00 ~ 16:30
- 2 開催場所 虎ノ門パストラル新館 5 階 蘭の間
- 3 出席者
永田座長、伊規須委員、酒井委員、田中委員、田辺委員、長谷川委員、原口委員
益永委員、若松委員
- 4 議題:(1) 懇談会の趣旨、公開の取扱いについて
(2) P C B 処理に係る制度等について
(3) P C B 処理技術、環境安全施策について
(4) 整理すべき課題について
- 5 概要
各議題について、事務局より資料に基づき説明、主な意見は次のとおり。
 - (1) 懇談会の趣旨、公開の取扱いについて
 - 議事録は、まず要旨を作成し、速やかに公表する。要旨の内容は座長に一任する。
 - (2) P C B 処理に係る制度等について
 - 特に意見なし
 - (3) P C B 処理技術、環境安全施策について
 - 生活環境影響調査の事例紹介について、実証実験と実プラントの規模等の条件の違いを含めて整理しておく必要がある。
 - 作業従事者に対する健康影響についても、情報収集をしておく必要がある。
 - (4) 整理すべき課題について
 - 15 年以内に、P C B 処理を完了させるためには、大枠の検討スケジュールを含めた国全体の基本戦略、全体計画が重要。一方、環境事業団としては、処理の対象となる廃棄物の種類や施設の能力を整理し、検討を進めることが必要。
 - P C B 処理に関する環境省と環境事業団の役割を明確にしたうえで、懇談会の取り扱う範囲を整理しておくことが必要。
 - P C B 処理に関する技術的な検討は、どのような規模の施設を考えるかによって大きく異なるので、ある程度具体的な施設規模を想定した検討も重要。
 - 環境事業団の事業として、どのような P C B 廃棄物まで対象とするのかという議論はあるが、まずは高圧トランス、コンデンサーを対象に考えることが適当。
 - P C B の処理技術は確立されているが、処理システム全体としての技術評価は必ずしも十分されておらず、容器の処理も含めたトータルな検討が重要。また、処理システムの運転管理という視点も重要。

- 処理技術と環境安全施策に分けて整理するのはいいが、環境安全施策として整理されているリスク低減対策や処理対象物の搬入管理は、処理技術とも関連が深いので、相互に関連づけた検討が重要。
- P C B 処理事業については、リスクコミュニケーションにも重点を置いて、環境事業団としての考え方を整理すべき。また、リスクコミュニケーションは、北九州市の検討で先行しているので、これをモデルとして十分参考にすべき。
- 事故時、緊急時には、自治体の消防本部の対応が想定されるが、規模の小さな消防本部では必ずしも十分な対応ができない場合があることを念頭に、環境事業団としての体制を検討すべき。

6 今後の予定

2 グループ（処理技術グループと環境安全グループ）に分けて、以下のスケジュールで検討を進めることを了解。

- ・ 処理技術グループ（公開）： 8 / 8 13:30～17:00 於環境事業団
- ・ 処理技術グループヒヤリング（非公開）： 8 / 23 10:00～17:00 於環境事業団
- ・ 安全環境グループ（公開）： 8 / 22 13:30～17:00 於環境事業団

7 問い合わせ先

環境事業団 環境保全・廃棄物事業部 処理技術室 03-5251-1038